

# 【家庭教育支援チーム】

## (1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	勝央町家庭教育支援チーム (呼称:あすなろ)
②活動拠点	勝央町公民館
③活動範囲	勝央町内全域
④組織体制	10人 元教員3人、元保育士2人、民生委員1人、子育て経験者2人、 保護者2人
⑤活動開始年度	平成28年度
⑥問合せ先	(部署・氏名等) 勝央町教育委員会 教育振興部 (TEL)0868-38-1753 (E-mail)syakaikyoiuku@town.shoo.okayama.jp

## (2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	<input type="checkbox"/> 保護者等への学びの場の提供 <input checked="" type="checkbox"/> 保護者等への地域の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) <input checked="" type="checkbox"/> 自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input checked="" type="checkbox"/> 保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input checked="" type="checkbox"/> その他(家庭を支援する目的でチーム主催の企画を実施)
②活動対象 (複数チェック可能)	<input checked="" type="checkbox"/> 乳幼児 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(低学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(中学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(高学年) <input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以上  の子供を持つ保護者に対する活動を実施
③活動内容	【具体的な活動内容】 ・子育て情報誌の作成・配付(3か月に1度のペース) 町の広報紙では取り上げきれない、子どもたちに関わる身近なニュースや 問題、学校での様子を掲載している。町内の小・中学生のいる家庭には、チ

	<p>ーム員が訪問配付し、保育園児のいる家庭には、園を通じて配付している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援チーム連絡会の開催 月1～2回程度、チーム員同士の連絡会を開催し、情報誌の配付で得られた情報や学校からの情報を共有している。また、訪問の目的やチームの方針がぶれないための意識共有、問題を一人で抱え込まないための話し合いの場としている。ケースによっては、その都度学校や勝央町子ども・若者サポートネットと情報共有を行い、支援につなげている。</li> <li>・あすなろ冬休み宿題教室の開催 家庭とつながりをつくり、子どもと家庭を応援することを目的として、小学生を対象とした冬休み宿題教室を12月に計3回開催。令和5年度は、町内にある北部と南部の小学校2校のうち、北部地域の小学生の参加を促すため、南部の公民館と北部のコミュニティセンターの2箇所を会場とした。冬休みのワークや自主学習ノートだけでなく、家庭の負担になりやすい書初めのサポートも行った。また、宿題を終えた子どもが暇を持て余さないよう、雑巾縫いや工作(びっくり箱)ができるコーナーを設けた。</li> <li>・あすなろおしゃべり会の開催 テーマを特に決めず、参加者同士や支援チーム員と楽しく世間話をしたり、ゆったり過ごしたりするおしゃべり会を1月に1度開催。令和5年度は、毎月1回、公民館のホール開放し、子どもたちが自由に遊べる場を提供する「マイルーム」事業と並行して実施することで、子どもが遊んでいる間に話ができるようにした。また、未就学児については、同一フロアで支援チーム員が託児を受け付けることで、保護者が安心して話せる場とした。</li> </ul>
<p><b>④活動の成果</b> (活動実績がある場合)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報誌の訪問配付を継続することで、子どもや保護者にもチームの存在が少しずつ認知されるようになり、顔の見える関係づくりにつながっている。また、訪問配付を行うことで、学校が踏み込みづらい家庭に関する情報や学校には直接相談しにくい保護者の悩みを聞き出すことができ、話を聞く中で得られた情報を学校へ伝えるなどして、学校と密な連携を図ることができている。</li> <li>・冬休み宿題教室では、ワークや自主学習ノートだけでなく、書初めや雑巾縫い、工作(びっくり箱)のコーナーを設けたところ参加者からは好評であった。</li> <li>・おしゃべり会では、参加した保護者から、「子どもを連れて参加できるのが良かった」「他の保護者の方の意見を聞いて参考になった」といった肯定的な意見が得られた。</li> </ul>

<p style="text-align: center;"><b>⑤活動財源</b> (複数チェック可能)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(事業名:地域における家庭教育支援基盤構築事業)</p> <p><input type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(事業名: )</p> <p><input type="checkbox"/> 厚生労働省事業(事業名: )</p> <p><input type="checkbox"/> 地方公共団体単独事業として実施</p> <p><input type="checkbox"/> 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施)</p> <p><input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施 ( )</p>
--	---